

平成23年度 鹿児島市教育研究大会 実践研究中間報告

研究テーマ

子ども一人一人が文章を正しく読み取る力を育成する学習指導法の研究
～国語科の指導法の工夫と読書活動の充実をめざして～

鹿児島市立南方小学校

- 1 テーマ設定の理由
 - (1) 1年目の取組の成果と課題から
 - (2) 2年目の子どもの実態から
- 2 研究テーマ
- 3 研究の仮説と研究内容
- 4 研究の実際
 - (1) 研究組織
 - (2) 研究授業
 - (3) 実践報告会
- 5 研究の成果と課題

1 テーマ設定の理由

(1) 1年目の取組の成果と課題から

本校では本テーマを3年計画で取り組むことにし、昨年度は初年度ということで、これまでの授業の中でやってきた「読む」ことの指導に新しい挑戦を加えながら取り組み、以下のような成果を挙げた。

- 教師による読み聞かせ
 - ・ 職員が読み聞かせた本は、その日のうちに図書室からほとんど全部の本が子どもによって借りられていた。
 - ・ 職員が読み聞かせた本の内容に関連した会話をする子どもの姿が見られた。
- 読書と関連付けた単元の計画や単元名の工夫
 - ・ 2年生では、「お話列車」の取り組みで、読書の幅を広げようとする子どもの姿が見られた。展示や読み聞かせなど、読書環境の工夫により、子どもたちが主体的に重読書する姿が見られた。
 - ・ 3年生では、読んだことのある本を再度意識して読み返したり、自分の好みだけでなく、いろいろな国の話を読み、読書の幅を広げようとする子どもの姿が見られた。読書紹介をする子ども同士の交流があった。
 - ・ 4年生では、「白いぼうし」以外の「あまんきみこ」の作品（同作者異作品）を授業に関連して図書室に借りに行き、読んでいる子どもの姿が見られたり、目的をもって読書する子どもの姿が見られたりした。また、相手意識をもって本の内容を要約し「おすすめの本カード」を作成する子どもの姿が見られた。そのカードを渡し合うことで、感じ方の違いを楽しんだり、その本を読んだりする姿が見られた。
 - ・ 5年生では、授業の関連で、詩集をとって読む子どもの姿が見られた。「北原白秋」「三好達治」「金子みすゞ」の詩集を借りたり、放送したりする姿が見られた。
 - ・ 6年生では、国語の1学期末の県版テストの平均が94点と高得点だった。辞書引きの習慣化が効果的だった。授業開始と同時に辞書引きに取り組む習慣が付き、調べた言葉を使って短文作りをさせることで、言葉の実用を通して子どもたちに言葉の力が定着した。読書紹介のためのブックリストをもとに、図書室から借りて読む子どもの姿が見られ、読書の習慣化が図られた。また、相手意識をもって読書をし、メモを記入した付箋を貼りながら読書する子どももいた。また、新聞も活用することで関連読書に発展し、子どもの視野を広げられたと感じる。

そして、今後の課題も明らかになった。1年目を終えての課題は以下のようであった。

- ・ 2年生では、紹介カードの内容を見ると、紹介内容が浅く、最後まで読んでいないと思われるものもあった。読書量だけでなく、読書の質を大切にする必要がある。紹介する本の内容を分かりやすく要約、再構成できていない。相手意識をもたせ、伝わりやすい効果的な要約、再構成を指導する必要がある。
- ・ 3年生では、学年相応の本選びを呼びかけ、効果的な読書環境作りを図っていく必要がある。

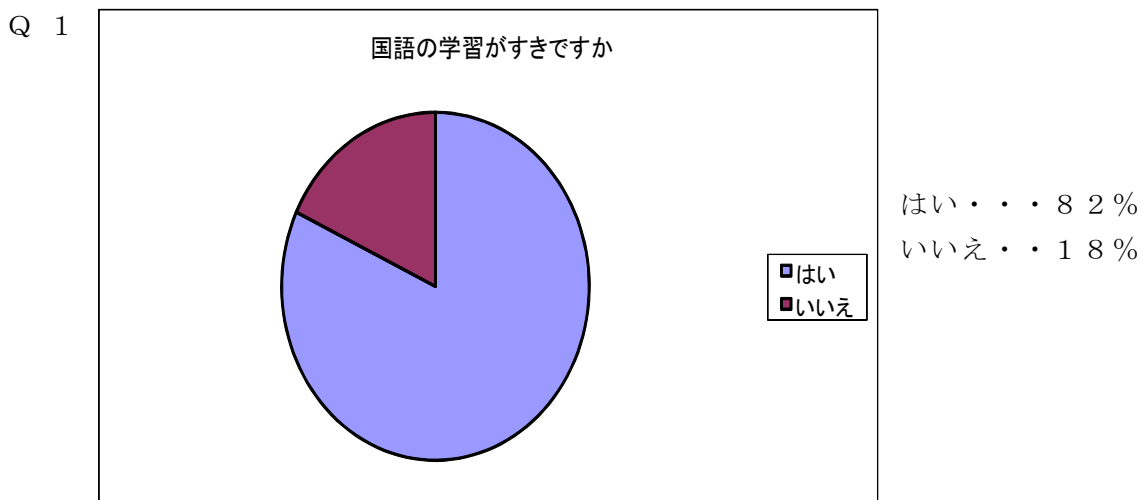
- ・ 4年生では、「おすすめの本カード」の記入内容に差が見られた。要約を今後も取り入れて、効果的に内容や要点などを要約できるように指導していく必要がある。一冊の本を最後まで読み切るため、短時間で自分にふさわしい本かどうか確認する手立てとしての文献探索能力を育てていきたい。
- ・ 5年生では、担任が子どもたちと一緒に図書室に足を運び、詩集などを手にとって紹介する活動ができればよかった。
- ・ 6年生では、友達から紹介された本を読書する時間を確保させるのが難しかった。

以上のような課題を解決し、さらに1年目の研究を深化させるため、2年目は「本を読んで、考えを深めること」に重点を置くことにした。

(2) 2年目の子どもの実態から

新学習指導要領の完全実施の年であり、国語科の教科書も変わることから、まず子どもたちの実態調査を行ったところ、次のような実態が明らかになった。

「国語の学習と読書に関するアンケート」の結果



Q 2 それはなぜですか。

<すきな理由>

- 字が上手になるから。
- 本を読むのがすきだから。
- 音読ができるから。
- 読むのが楽しいから。
- いろいろなことをするから。
- 漢字がすき。
- 文章を書いたり読んだりするのが楽しいから。
- インタビューをするのがすきだから。
- いろいろ調べたりくわしく勉強したりするから。

○新しい言葉が分かるから。 など

<すきでない理由>

△発表できないから。

△字がきれいに書けないから。

△漢字が難しい。

△文を書くのが大変だから。

△文章を読むのが苦手だから。

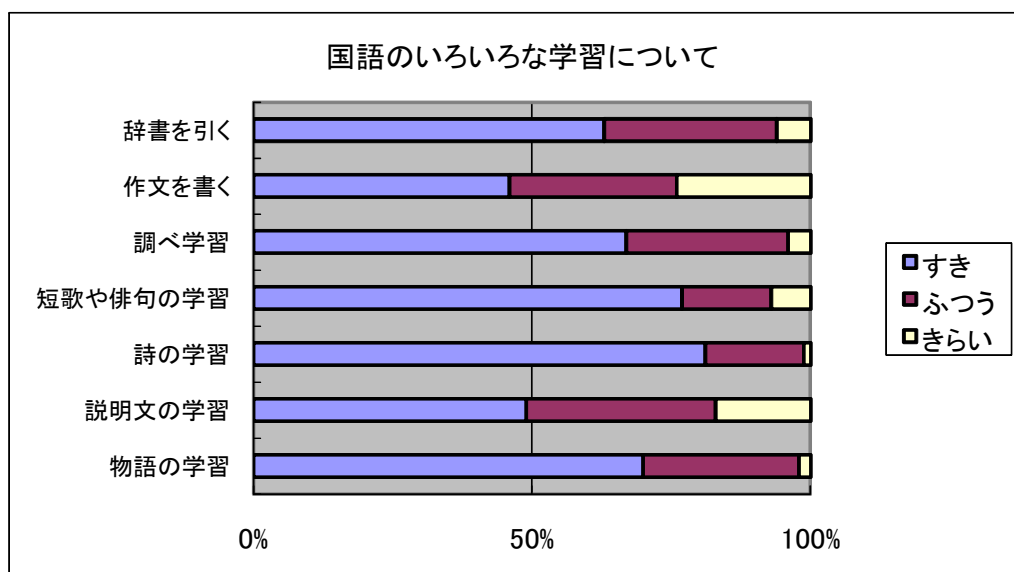
△線を引くところが分からないから。

△本を読むのがきらい。 など

【考察】

本校の子どもたちは、おおむね、国語の学習に興味があり、いろいろな活動を楽しみにしている様子がうかがえる。きれいな子どもたちは、特に「読むこと」への苦手意識があるように思われる。

Q 3



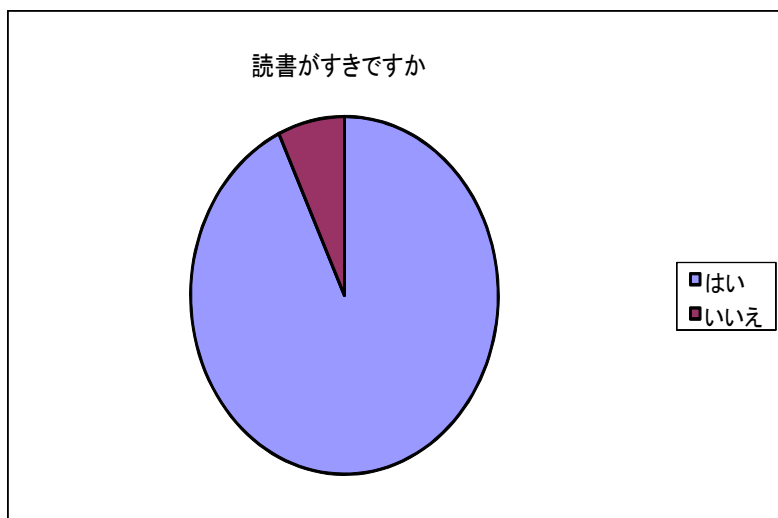
【考察】

一番すきな学習は「詩の学習」である。短い言葉の中にこめられた思いを感じ取れているのか、テストとの関連も調べられそうである。また、詩の本の貸し出し状況はどうであろうか。詩の学習の前後に関連図書等を読んでいるのか調べてみたい。

「説明文の学習」は「きらい」と答えた子どもが多いが、要旨をまとめたり、筆者の思いを読み深めたりすることが苦手なのではないかと思われる。

「作文を書く」ことを「すき」と答えた子どもが50%以下なのは、作文に取り組んでいる本校としては残念。「自分の考えをまとめる」という点では、説明文の読み取りとも関係しているので、指導の在り方を工夫する必要があるのではないかと。今後の課題。

Q 4

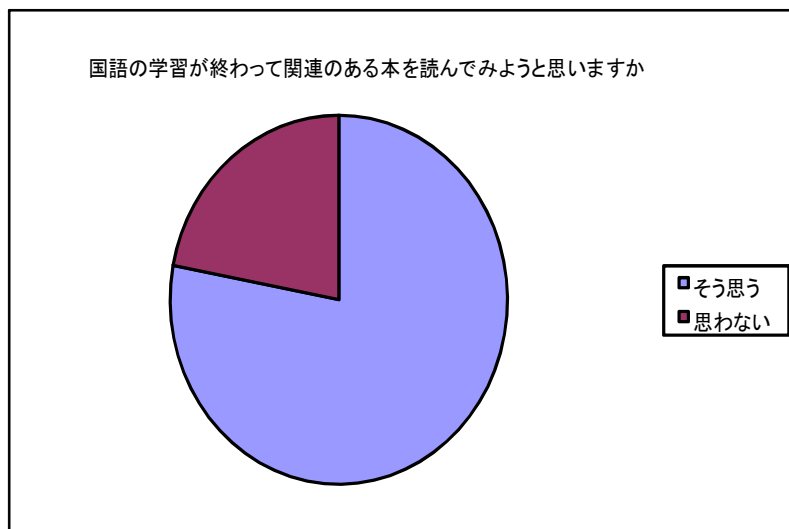


はい・・・ 93%
いいえ・・・ 7%

【考察】

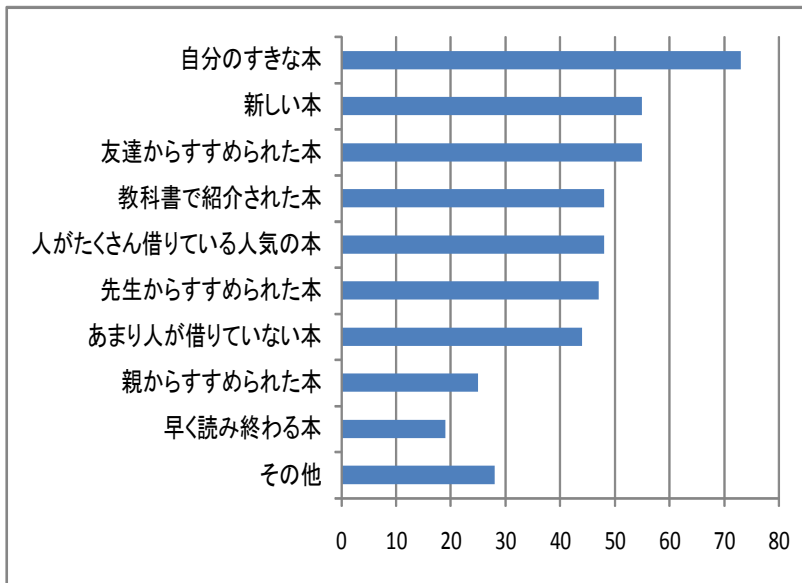
読書そのものは、ほとんどの子どもがすきである。

Q 5



そう思う・・・
78%
思わない・・・
22%

Q 6 本を選ぶとき、どんなことを考えて選びますか。(複数回答可)



<その他の意見>

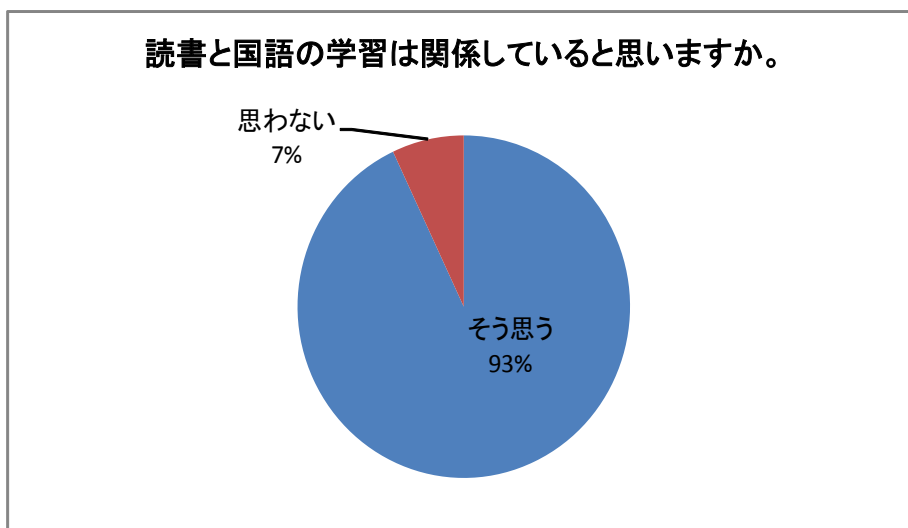
- ・表紙がきれい。
- ・絵がかawaii。
- ・字が大きくて読みやすい。
- ・アニメなどテレビで見た本。
- ・頭にいい本。
- ・科学や歴史の本。
- ・長い(厚い)本。
- ・今度こそ全部読み切ると思って。
- ・題名で決める。

Q 5, Q 6の結果から

【考察】

国語の学習が終わって、関連する本を読んでほしいという教師側の気持ちは、どの程度伝わっているのか。結局は、自分の好きな本を選ぶ傾向が強いことが分かる。であるならば、読んでほしい本を好きになってもらうような手立ての工夫が必要なのではないか。また、教科書で紹介された本よりも、友達からすすめられた本を選ぶ傾向があるので、国語学習の中や読書指導の中で、教師側が意図する本について子ども同士が紹介するような活動を取り入れることもできるのではないかと考えられる。また、「あまり人が借りていない本」を好む子どもも割合にしていることから、そのような本を見つける楽しさや紹介しあう楽しさが感じられる活動も有効なのではないかと考えられる。

Q 7



【考察】

ほとんどの子どもたちは、読書と国語の学習の関連は意識しているが、Q6までの反応と合わせて考えると、本校2年目のサブテーマである「本を読んで考えを深める子どもの育成」という姿には至っていないと考えられる。読書は読書。好きな本を読むもので、国語の学習とはややかけ離れた感覚をもっていることが分かる。国語科学習で身につけたことを生かして、読書の幅を広げたり、本を読んで何かを追求したりすることが、自分の力になっていくことを、実感させる経験を重ねさせたい。

以上のような実態から、2年目は「本を読んで、考えを深める子どもの姿」をめざすことにした。

2 研究テーマ

子ども一人一人が文章を正しく読み取る力を育成する学習指導法の研究
～国語科の指導法の工夫と読書活動の充実をめざして～

3 研究の仮説と研究内容

仮説1 子どもに「ことば」を意識させる国語科授業の工夫を行えば、読み取る力を高めることができるのではないだろうか。

具体的な取組

- ア 読書と関連づけた単元名の工夫や指導計画の工夫
 - ・ 読み聞かせやアニメーションの活用
 - ・ 関連読書を意識した学級文庫の入れ替え
- イ 3年生以上の辞書の効果的な活用と低学年の「ことば」に着目する手立ての工夫
 - ・ 言葉リストの作成と活用
(例：動作化、短文作り、同じ言葉を他の本から探す、試写など)
 - ・ 辞書早引きコンテスト(6月、10月)3年生以上
 - ・ 季節の言葉クイズ(6月、10月)低学年
 - ・ 系統立てた「ことば」への取組
(四字熟語、ことわざ、慣用句など)
- ウ 読解と要約、再構成などの言語活動を意識した指導
 - ・ キーワード作文、字数制限短作文
 - ・ 感想文、感想発表、意見交流などによる表現力の育成
- エ 授業の共通実践事項の徹底
 - ・ 「授業改善の実践6項目」「教師の共通理解事項」の実践
 - ・ 国語科授業の共通実践項目の検討と実践
 - ・ 研究授業による仮説検
 - ・ 各種テストによる「読み」の点数アップ

仮説2 読書活動の推進を図ることによって文章を読み取る力を高めることができるのではないだろうか。

具体的な取組

ア 教師による読書指導の工夫

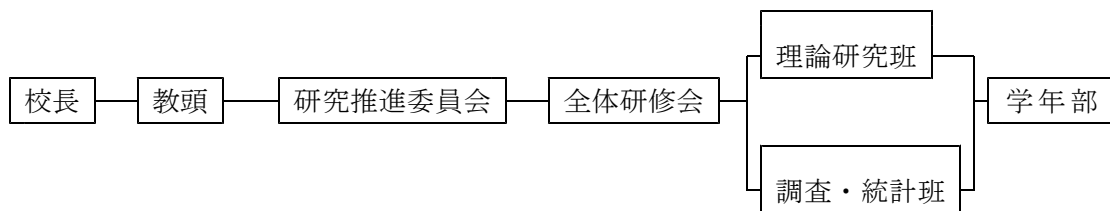
- ・ 定期的な読み聞かせや読書アニメーションの実施
- ・ 朝の学習「読み」の時間の活用
- ・ 家庭での30分読書の励行（南方+2・3作戦）
- ・ 毎月23日「親子読書の日」の啓発・実施（読書指導部との連携）
- ・ 「神話・古典・ことわざ」などの読書の推奨

イ 担任と司書による読書指導の連携

- ・ 学級文庫の設置，定期的な入れ替え
- ・ 推薦図書の検討
- ・ 読書旬間（6月）や読書月間（10月）の取組
- ・ 全校読書（親子読書）（2月）の計画的運営
- ・ 個別の読書冊数と読書遍歴の活用
- ・ 読書に関する子どもの対話（教師による観察）

4 研究の方法

(1) 研究組織



(2) 研究授業

第6学年 国語科学習指導計画案

平成23年6月27日(月)
6年1組 男子5名 女子10名 計15名
指導者 笠井和子

1 単元名 文章と対話しながら読み，自分の考えをもつ

領域 読むこと⑦ 書くこと②

教材名 「感情」(説明文)

1時間

「生き物はつながりの中に」(説明文)

8時間

光村図書6年上

2 単元設定の理由とねらい

(1) 教材観

本単元で、取り扱う「書くこと」「読むこと」については、小学校学習指導要領解説国語編で次のように示されている。

〈小学校学習指導要領解説国語編 第5学年及び第6学年〉

「B 書くこと」(2) 内容 ①指導事項

ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたりくわしく書いたりすること。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

「C 読むこと」(2) 内容 ①指導事項

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

4月は「カレーライス」で、一人学習とグループ学習を中心に指導を行った。グループ学習においても、相手と自分の考えの相違点を踏まえて話したり、聞いたりすることがおおむねできている。

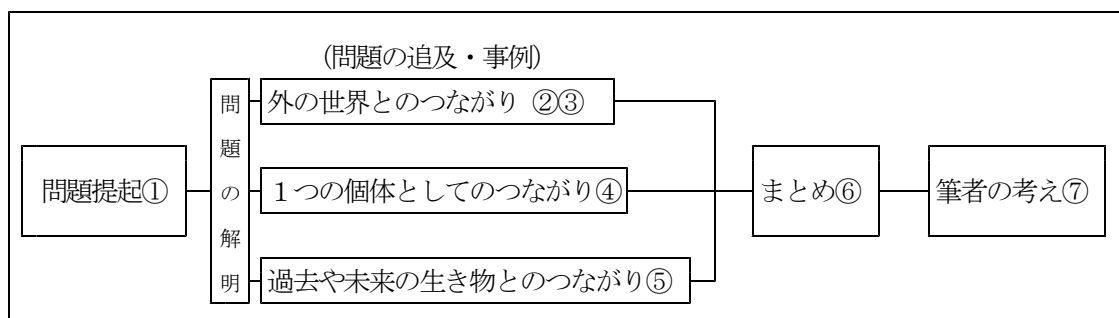
「書く」活動に関しては、基本的な書き方を指導し、文章構成を整えて書くことを目標としたため、表現方法や文章構成を工夫したり、自分の考えを盛り込んで書いたりといった指導までは至っていない。

本単元は、第1教材「感情」と第2教材「生き物はつながりの中に」で構成されている。どちらも「人間」という題材と、「強いメッセージを与える」という文章目的において共通している。どちらの教材も、そういった筆者の意図をつかむために、構成と要旨をとらえる必要がある。その上で、自分の考えを明確にしながら、読む力をつけることが、この単元のねらいである。

「マイナスの感情にも意味がある」、「生命は固有であり連続体でもある」このような根本的な筆者のメッセージをぜひ真剣に受け止めて、「自分」について肯定的に考える手立てとしてほしい。また、脳科学者や生物学者が、生命について専門的な知識を踏まえて、子どもたち(読者)に 願いを託しているのだという点も読み取らせたい。筆者の願いや考えに触れ、自分はどうか考えるのだろうか、悩みながら読む体験をさせることで「文章と対話しながら読む」力を育みたい。

第2教材「生き物はつながりの中に」(中村桂子 作)は、生き物の特徴をただ一般

的に解明するのではなく、ロボットのイヌと本物のイヌを比較しながら解明している点が特徴的である。文章構成は、「問題提起」→「問題の解明」→「まとめ・筆者の考え」という明快なもので、最終段落に筆者の主張が明確に示されている。子どもにとってもわかりやすい文章構成となっている。



子どもが、これまでの説明文学習で身につけた力を定着させつつ、筆者の考えに対して自分の意見を表明するという学習に適している。「わたしたち生き物は、時間的・空間的つながりの中において、変化しつつも変わらない自分を持ち続ける存在である」という筆者の考えは、将来を生きる子どもにぜひ触れさせたいものである。

そこで、本単元では、①文章を要約・要旨をまとめる ②筆者の主張について自分の考えをもち、表現方法を工夫して書くことを重点にして指導を行う。

①文章を要約するについては、キーワードや接続詞、対比表現に着目させて、筆者の意図に沿ってまとめさせていく。グループで話し合い、発表し合う活動を取り入れ、まとめ方の違いや、よりよいまとめ方を身につけさせたい。

②筆者の主張について自分の考えをもち、表現方法を工夫して書くことについては、子どもの「何を書いてよいかわからない」などのつまずきに対応するため、並行読書を行わせたり、要約した段落について、自分の考えの根拠や考えを広げたりする活動を行う。また、発表し合う中で、友達の考えからも自分の考えを広げるよう助言していく。表現方法を工夫して書く段階では、まず、毎時間積み重ねてきたものをもとに、文章全体の組み立ての効果を考える活動を取り入れる。子どもの伝えたいことに応じて個別指導を充実させていく。

次に、書き方のパターンも提示し、自分の伝えたいことが明確になるように表現の効果を考えて書いたり、事実と自分の意見を区別して書いたりする。書いた文章はグループで読み合い、表現の効果などについて助言し合う活動を取り入れる。自分の文章を見直す視点を明確にすると同時に、友達の文章を読むことによって、推敲する力がつくと考えられる。なお、グループで読み合い、表現の効果について交流するときは、良いところを必ず伝え、直した方がよりよいと思う箇所を伝えるなど、単なる批判にならないよう、伝え方も工夫するよう助言していく。

(2) 本学級の子どもの実態

本学級の国語に関する実態は次の通りである。

国語の意識調査を行ったところ、「国語の学習が好き」と答えた子どもは、80%で、「どちらともいえない」と答えた子どもは20%（3名）だった。領域によって得手不得手がはっきりしてきていることがわかった。しかし、「きらい」と答えた子どもがいなかったことから、国語に対して関心や意欲が高い学級であることが分かった。

「国語のいろいろな学習」に対して苦手と答えたものは、「辞書を引く」「考えを話す」「文章を読み取る」で、ともに13%（2名）だった。全体的に「書くこと」に苦手意識をもっている子どもが多いと予想していたが、きらいと答えた子どもは0だった。ただ、作文や日記の文章は、全体的にまだまだ稚拙なので、多くの言葉を獲得させ、効果的な表現ができるように指導していきたい。

また、「書くこと」においては、視写を行い、5分間でどのくらいの量が書けるかを調査した。71%の子どもが5分間で150字～200字書けている。5分間で100字～150字の子どもも含め10分間で原稿用紙1枚程度は全員が書けると思われるので、書く指導をする際の参考にしていく。

「読むこと」においては、これまでに文学的文章教材で「カレーライス」の学習を行った。一人学習による読み取りやグループによる話し合いを中心に学習を行った。一人学習はよく定着していて、意欲的に主人公の気持ちを読み取り、ノートにまとめることができている。

また、読書への関心が高く、全員が「読書が好き」と答えていた。しかし、「学習に関連がある本を読みたいか」に対して、「はい」と答えた子どもは40%と予想以上に少なかった。これは、子どもたちの読書に偏りがあり、科学本などの説明的文章より物語的文章の方が好まれている実態が表れたものだと思う。今後、幅広いジャンルの読書を経験させ、偏りを修正し、視野を広げさせる指導をしていきたい。

3 単元の目標・単元評価規準

読（1）指導事項

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしなが、読んだりすること。

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

書（1）指導事項

カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

伝国（1）指導事項

イ（言葉の特徴やきまり）

（キ）文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

(1) 目標

◎筆者の意図を考えながら読み、筆者がこの文章を通して読者に考えてもらいたいと思っていることをまとめることができる。

◎筆者の考えについて自分はどう考えるかをまとめ、友達と交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

・ノートにまとめた自分の考えを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。

(2) 評価規準

【関】筆者の問いかけに関心をもち、文章を読んで考えようとしている。

【読】筆者の意図をとらえている。(1)ウ

- ・筆者の考えと根拠をとらえ、自分なりに評価する観点をもっている。(1)ウ
- ・交流することの意味を見だし、友達との共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを深めている。(1)オ

【書】書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して、助言し合っている。(1)カ

【言】筆者が結論を導く過程について「文章の構成」という観点から理解している。

(1)イ(キ)

4 指導にあたって

(1) 研究主題とのかかわりについて

本校では、本年度「本を読んで、考えを深める子どもを育てる」ため、次の2つの仮説を立て、検証している。従って、本単元でも、2つの仮説を以下のような活動により検証したい。

仮説1 子どもに「ことば」を意識させる国語科授業の工夫を行えば、読み取る力を高めることができるのではないだろうか。

研究内容と具体的な取組

ア 読書と関連づけた単元名の工夫や指導計画の工夫

本教材に関連のある「命」や「生きること」をテーマとした本を並行読書させ、子どもたちが自分の考えを文章にまとめる際の参考とさせる。

イ 辞書の効果的な活用

国語の授業では、国語辞典を必ず手もとに置き、分からない言葉に出会ったらすぐ調べられるようにする。また、調べた言葉に付箋をつけることにより、辞書引きの意欲につなげる。6年生では、独自に「ことば辞典」を作成し、出会った難解語句などの意味を辞書で調べ、書きためている。また、習得した言葉を活用できるように、「今日の短文」として、学習係が言葉を選び日々の宿題で取り組ませている。今後の継続して取り組ませる。

<p>ウ読解と要約, 再構成などの言語活動を意識した指導</p> <p>要旨をまとめる際, 字数制限をすることで, 筆者の一番主張したいことをしっかりとつかませるようにする。</p>
<p>仮説2 読書活動の推進を図ることによって, 文章を読み取る力を高めることができるのではないだろうか。</p>
<p>研究内容と具体的な取組</p> <p>ア 教師による読書指導の工夫</p> <p>朝の学習「読み」の時間を活用し, 本教材に関連のある「命」や「生きること」をテーマとした本の紹介をする。</p>

(2) 各段階での指導

「つかむ」段階では, まず今までの文章の読み方を振り返り, 「文章と対話しながら読み, 自分の考えをもち, 筆者に手紙を書く」という学習過程を子どもたちと確認する。この学習過程, 学習内容, 読み取りの方法を「学習の手引き」として提示し, 子ども自らが学習に見通しをもって取り組めるようにしたい。


「見通す」段階では, 教材文「感情」を読み, 問題提起に沿って筆者の意図を読み取り, 自分の考えをまとめる練習をし, 次の「生き物はつながりの中に」で要旨をまとめやすくさせる。

「調べる・深める」段階では, 「感情」で学習したことをモデルに, 学習の手引きに沿って, 「生き物はつながりの中に」を読み, 筆者が本物のイヌとロボットのイヌを対比しながら, 読者に何を伝えようとしているのかや文章の大まかな構成をとらえさせたり, 要旨をまとめさせたりする。要旨をとらえて自分の考えをもたせるためには, 書かれている内容を的確に読み取ることが必要である。そこで手引きとワークシートを対応させることで, 読み取りのポイントを明確に示し, 文章の内容を的確にとらえさせる。また, より身近に感じさせ, 理解を深めさせていくために, 読み取ったことと自分自身を比較させる。自分に置き換えて考えるという思考を経ることにより, 筆者が主張することに対して自分なりの考えをもつことが容易になると考える。

「まとめる」段階では, 話し合いで深まった考えをもとに筆者へ手紙を書いたり, 文章を読み合い, 表現の仕方について助言し合ったりする。ワークシートに書き込んだ後に話し合い活動を取り入れることで, 自分の考えを確かめ, 広げていけるようにさせる。また, 目的意識をもって話し合いに参加することができると思われる。話し合いの中で互いの意見を交換し合うことで, 子どもたち同士のつながりも実感させたい。

筆者への手紙という形式にし, 相手意識をもたせ自分の思いを書かせやすくする。

5 指導計画 (全9時間) 本時 6 / 9時

過程	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 点
つ か む	 <p>①今までの文章の読み方を振り返り、「文章と対話しながら読み、自分の考えをもつ」という学習課題を設定する。</p> <p>②学習の見通しをもつ。</p>	1	<p>・本教材に関連のある「命」や「生きること」をテーマとした本を並行読書させ、自分の考えを深める際の参考とさせる。</p> <p>【仮説1ア】</p> <p>①今までどのような読み方をしてきたか、5年生で学習したことなどを手がかりに振り返らせる。</p>
見 通 す	<p>③「感情」を読み、問題提起に沿って筆者の意図を読み取り、自分の考えをまとめる。</p>	2	<p>③段落ごとに書かれていることをまとめさせる。</p> <p>③脚注を参考にして、「文章と対話しながら読む」ことを実感させながら、自分の感想や考えをまとめさせる。</p> <p>③難解語句は辞書で意味を調べさせながら、読み取らせる。 【仮説1イ】</p>
調 べ る ・ 深 め る	<p>④「感情」で学習したことをモデルに、学習の手引きに沿って、「生き物はつながりの中に」を読み、筆者が本物のイヌとロボットのイヌを対比しながら、読者に何を伝えようとしているのかや文章の大まかな構成や段落ごとの要点をとらえる。</p> <p>⑤「生き物はつながりの中に」の要約や文章構成をとらえる。</p> <p>⑥筆者の考えや意図を読み取り、要旨をまとめる。</p> <p>⑦筆者が読者に伝えようとした内容(要旨)について、「共感できること」「納得できないこと」「疑問に思うこと」を整理し、筆者の意図について自分の考えを文章にまとめ</p>	3 4 5 6 7	<p>④問題提起に沿って読み、筆者の考えや願いをとらえさせる。</p> <p>④構成や表現の工夫からも、筆者の意図を読み取らせる。</p> <p>④難解語句は辞書で意味を調べさせながら、読み取らせる。 【仮説1イ】</p> <p>④要点や小見出しから段落相互の関係を考えさせたり、文章構成図を書かせたりする。</p> <p>⑤文章全体の要約文の書き方を理解させる。</p> <p>⑥第7段落の役割や題名の意味などを手がかりに、筆者が読者にいちばん伝えたかったことを読み取らせる。</p> <p>【仮説1ウ】</p> <p>⑦「たいせつ」を意識し、筆者の考えに対する自分の考えをまとめさせる。</p>

	る。 ⑧⑦で書いたものをもとにグループで話し合っ て、自分の考えを深める。	8	⑧話し合うことで、自分の考えが深まるこ とを意識させる。
ま と め る	⑨⑧の話し合いで深まった考えをもとに筆 者へ手紙を書く。 ⑩文章を読み合い、表現の仕方について助 言し合う。	9	⑨表現の仕方について助言し合い、今後の 書く活動に生かしていくようにさせる。ま た、筆者への手紙という形式をとることで、 自分なりの意見をもちやすくさせる。

6 本時の学習指導（ 6 / 9 ）

(1) 目標

○筆者の考えや意図を読み取り、要旨をまとめることができる。



(2) 本時評価規準

【関】筆者の考えや意図に関心を持ち、文章を読んで考えようとしている。

【読】要約や文章構成図を押さえて、要旨をまとめることができている。

(3) 本時の実際（ 6 / 9 ）

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
つ か む 見 通 す 調 べ	1 漢字ドリルを使って、漢字練習をす る。 2 前時の学習を振り返る。 3 学習の課題と学習の進め方について 確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">筆者がわたしたちにいちばん伝えた いことは何だろうか。</div> 4 「生き物はつながりの中に」の7段 落を読み、筆者の意図を探る。 ○前時までの要約文や文章構成図を活 用し、100字程度の要旨にまとめる。	(分) 4 2 20	・新出漢字を定着させ、教材文をすらすら 読めるようにする。 仮説1イ ・学習計画を振り返らせ、本時のめあてを 確認する。 ・課題意識をしっかりともちながらの読 みができるようにする。 ・要点を調べるときに重要な文（キーセン テンス）や重要な言葉（キーワード）、文 脈の流れを決める接続語、文末表現など、 筆者の思いをとらえる上で役立つ読み取り

<p>る</p> <p>・ 深 め る</p> <p>ま と め る</p>	<p>○まとめた要旨について全体で話し合 う。</p>  <p>○省く部分・残す部分を見極め、30～ 40字程度の要旨にまとめる。</p>  <p>5 本時の学習のまとめをし、自己評価 をする。</p> <p>6 次時の学習について確認する。</p>	<p>をしたことを振り返る。</p> <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人が書いた要旨を全体で交流すること で、重要な文（キーセンテンス）や重要な 言葉（キーワード）をおさえることができ ていたか確認させる。 ・文章の優れている点や改善点を考えなが ら聴かせる。 <p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省く部分や残す部分を見極めることが困 難な子どもたちへ「感情」で学習したこと をモデルとして示し、助言する。 <p>仮説1ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名の意味も手がかりに考えさせる。 <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価をさせ、学習を振り返らせる。 <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告をし、次時への課題意識をも たせる。
--	---	---

(4) 板書計画

ほしいと願っている。筆者は、読者に生かしていることを

【要旨】

よ自分自身も大切である。う気持に他のことも大切である。

【結論】

今、あなたが生き物として生きていくことが、生き物として生きていくことか。

【理由】

あなただけ、今日もあなたが生きる。あなただけ、今日もあなたが生きる。あなただけ、今日もあなたが生きる。

【理由】

あなただけ、今日もあなたが生きる。あなただけ、今日もあなたが生きる。あなただけ、今日もあなたが生きる。

【理由】

あなただけ、今日もあなたが生きる。あなただけ、今日もあなたが生きる。あなただけ、今日もあなたが生きる。

【理由】

あなただけ、今日もあなたが生きる。あなただけ、今日もあなたが生きる。あなただけ、今日もあなたが生きる。

(3) 1学期実践報告会

<第1学年実践報告>

- ①小単元名 楽しんだり，想像を広げたりしながら読む (6月)
「おさるが ふねを かきました」

②教材について

- ・この詩に登場するさるの絵を描く過程のわくわく感や絵ができたときの達成感はこの時期の子どもたちの気持ちにぴったりで，すぐに感情移入できる。
- ・一つの連が，行動の理由と行動の2行からなる。詩の構成を押さえ，まとまりごとに意味を考えることで時間の経過とともにさるの気持ちに変化していく過程がわかりやすい。

③ 子どもたちにつくと期待できる力

- ・言葉のまとまりごとに意味を考えながら読む力をつける。
- ・**作者の他の作品にふれることで，詩のリズムの良さ，楽しさを感じたりすることができる。(発展)**
- ・**いろいろな詩にふれることで，詩の楽しさをあじわうことができる。(発展)**

④単元の計画

- 目標
- ・言葉のまとまりごとに意味を考えながら音読することができる。
 - ・想像を広げて読むことができる。

時	内 容
1	・「おさるがふねをかきました」を音読する。 おさるの行動や気持ちを読み取る。
2	・「おさるがふねをかきました」の詩を視写し，絵を添える。 ・まどみちおさんの他の詩を紹介する。
3	・図書室に行き，詩のコーナーを知り，いろいろな詩にふれる，お気に入りの詩を見つける。
4	・自分のお気に入りの詩を発表する。

⑤授業の実際

授業は2時間で計画されていたが，初めて「詩」を学習するので1教材にとどまらず，たくさんの詩にふれあう機会として，発展として2時間増やして計画した。

「おさるがふねをかきました」は，構成が物語風で，繰り返しによるリズムカルな調子，船にしっぽをつけてしまうユーモラスな描写など，子どもたちに親しまれ喜ばれる詩である。子どもたちが最初に触れる詩としてぴったりであった。そのまどみちおさんの他の詩やくどうなおさんの「のはらうた」など子どもたちが親しみやすいような詩を紹介すると子どもたちは喜んで聞き入った。

3時間目は自分で「詩」を読み，お気に入りの「詩」を見つける学習を展開した。みんな，喜んで本を手に取り，お気に入りの「詩」を見つけることができた。

4時間目、教室でお気に入りの「詩」の音読練習をして、書画カメラでうつしながら発表した。



⑥成果と課題

入門期の子どもたちにはじめての「詩」とのふれあいを大切にしたいと思って、この単元を計画した。子どもたちは「詩」を楽しい物としてとらえ、学習が終わっても、「詩」の本を借りて読む姿がよく見られた。長文に抵抗のある子も音読しやすく親しみやすいので、夏休みもたくさん借りていた。今後も、授業のあと、読書につながる取り組みをしていきたいと思う。

まどみちお詩集「こんにちはまどさん」
で「ぞうさん」を見つけて歌う1年生
(7月15日)

<第2学年実践報告>

実践内容

① 単元名

お話を読んで感想を書こう「スイミー」

② 指導目標

- ◎ 人物の行動や場面の様子などについて、想像を広げながら読み、感想を書くことができる。
- ◎ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、それをもとに感想を書くことができる。
- 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。
- 様子を表すことばを使って文を書くことができる。

③ 単元計画の工夫

第2次のみ

第2次	1	・話の構成をつかむ。
	2	・「中」を読み、スイミーがしたこと、言ったことを書き出す。 ◎ワークシートに「そのときのスイミーに一言」の欄を設け、こまめに感想を書かせる。
	3	・スイミーの紹介文を書く。 ◎第2時で確認しているスイミーの人物像を表す言葉を使って、100字以内でまとめさせる。(再構成)
	4	・「スイミー」を読んだ感想を書く。
	5	・友達と感想を交流する。

④ 授業における共通実践

- ・漢字の小テスト・・・毎時間5分以内で訂正まで
- ・「こどもこくごじてん」(三省堂)を使っての辞書引き・・・毎時間1語
- ・単文作り・・・宿題プリント

⑤ 成果と課題

- キーワードを使って時数制限のあるまとめをさせることに、初めて挑戦したが、苦戦しながらもできたので、今後も続けていく。
- 教科書の言葉リストに従って辞書引きに挑戦したことにより、家でも分からない言葉を辞書で調べるようになったと保護者からの声。
- 第4次が「レオ＝レオニの本を読む」という活動であったが、それまでに進んで読む子が少なかった。授業と読書の連動には、やはり手立てが必要だと感じた。

<第4学年実践報告>

1 実践内容

① 単元名 一つの花

② 単元設定の理由

- ・ 昨年度「三年とうげ」で外国の民話について関心を持ち本の紹介をし合ったり、「ちいちゃんのかげおくり」で戦争に関する本を読み紹介しあったりし、友達と交流する場を設けてきたが、紹介し合い各自の感想や考えを交流の段階で深めるまでにはいたっていない。そこでこの単元で学習したことを振り返り各自が選んだテーマについて考えをまとめ、交流の場を持った。
- ・ この単元を通して平和について考え、関連する本を読んだり、紹介し合ったりすることで友達や書き手の考えについてと自分なりの考えや感想を持ち、平和を希求する強い思いを育んで行くことを期待したい。

③ 本単元で子どもたちにつくと期待できる力

- ・ 物語の感動を共有する力
- ・ 読んで感じたことや考えたことを発表し合い、友達との感じ方・考え方の違いに気づくことが出来る。
- ・ 本の紹介で要旨をまとめる力
- ・ 様子を表す言葉について考え、表現するときに必要な語句を増やす。
- ・ いろいろな本に興味を持ち、友達と交流する力

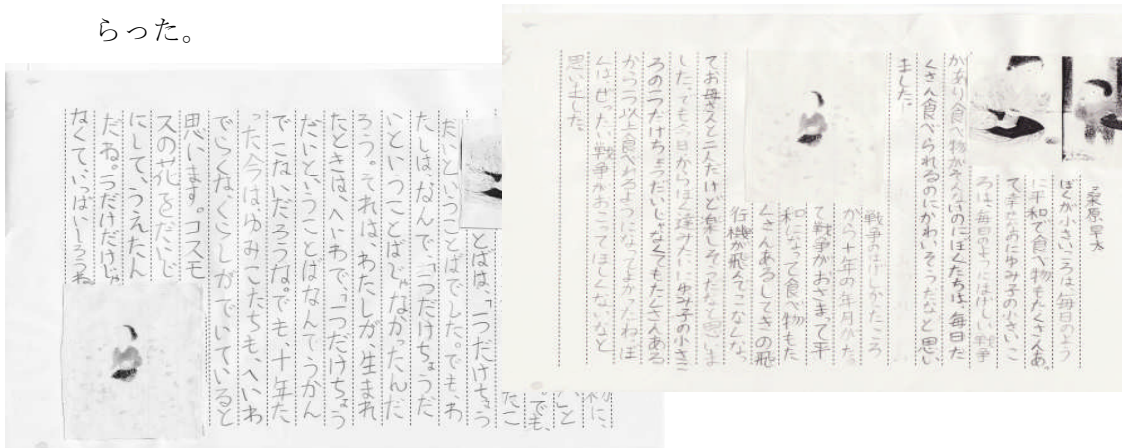
④ 単元の計画

時	内容
1 ②	・ 「一つの花」を読んで初発の感想を話し合い学習計画を立てる。 ・ 戦争について知っていることを発表し合う。戦争に関する資料提示学習課題 平和をテーマにした本を読んで友達に紹介しよう。
2 ⑥	・ 人物の行動や会話に着目して人物の気持ちや世の中の様子を読み取る。 ・ 意味の分からない言葉は辞典で引く。 ・ 着目した事柄についてどのように伝えるか考え「一つの花」を紹介しあう。
3 ①	・ 平和をテーマにした本の紹介をしよう。

4 ② ・ 学習を振り返り自分の考えを書き、友達と交流する。

⑤ 成果と課題

- ・ 3年生の「ちいちゃんのかげおくり」の学習経験から、学習計画を立てて、授業の中で比較したり、共通点を見いだしたりする場面があり、他の戦争関連書への読書意欲にもつながった。
- ・ 読書紹介する中で、戦争・平和について自分の考えと友達の考えを比べ交流することができた。
- ・ 事前に司書補の協力をもらい、戦争に関する本を探しやすい環境を整えてもらった。



2 親子レクリエーション

① 設定理由

PTA 等で本学級の国語に関する関心意欲が低いことや本の選び方が学年相応でない傾向があること。また、国語アンケートにより長文を読む事への抵抗感をあげる子どもが多いことを伝えた。すると毎日の音読活動はもちろんであるが、子どもたちの関心を高めるために親子読書にも力を入れていこうという事になった。

そこで、7月30日に常磐コミュニティーセンターにて親子レクの親子料理の中に保護者による読み聞かせをする事になった。

② 実施にあたり保護者が図書館に行き本の選定をし、読み聞かせをした後、読んだ本についてのアニメーションを行い交流を図ることが出来た。

読み聞かせ「きよだいな きよだいな」「世界一」他



<第5学年実践報告>

単元名 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう

教材名 百年後のふるさとを守る

目標 視点に沿って伝記を読み、自分の生き方を考える。

本時の評価規準

- 意欲的に伝記を読み、自分の生き方について考えることができる。

【関心・意欲・態度】

- 友達の感想を聞くことができる 【話す・聞く】

- 各意味段落ごとに熟読し、字数制限に沿ったタイトルをつけることができる。

仮説1 子どもに「ことば」を意識させる国語科授業の工夫を行えば、読み取る力を高めることができるのではないだろうか

視点に沿った感想を書くことができる。【読む・書く】

- 調べた語句を使った文を書くことができる。【言語に関する事項】

ア 読書と関連付けた単元の計画や単元名の工夫

教科書に書いてある単元名を見ると、本校の研修テーマに即したものである。従って、今回は、単元名は教科書の通りに扱うこととした。

具体的な指導計画

教材である、「百年後のふるさとを守る」は伝記である。この教材を通じ、児童に伝記の意味や必要性について考えさせ、様々な伝記について触れさせたいと考えた。指導計画では10時間扱いであるが、13時間扱いとした。(新出漢字や難語句は各時間の開始5分に学習させる。)

時間	学習内容
1	① 伝記について知り、どうして伝記があるのかを考えさせる。また、自分の知っている伝記を友達に教える。 ② 学習計画を立てる。
2	① 半読を聞き、初読の感想を書く。
3	① 場面1 (意味段落1) を読み、タイトルを付ける。
4	① 場面2 (意味段落2) を読み、タイトルを付ける。
5	① 場面3 (意味段落3) の半分を読み、タイトルを付ける。
6	① 場面3 (意味段落3) の半分を読み、タイトルを付ける。
7	① 場面4 (意味段落4) を読み、タイトルを付ける。
8	① 主人公、浜口儀兵衛の功績をまとめ、彼の人間性 (性格) について考える。 ② 視点に沿って、儀兵衛の行動と自分自身を比べてみる。
9	① 伝記を読み際の注意事項を確認する。(読み際の視点の確認) ② 図書室で自分の好きな伝記を選び読む。
10	① 図書室で自分の好きな伝記を選び読む。
11	① 図書室で自分の好きな伝記を選び読む。
12	① 読んだ伝記に出てくる主人公と自分を比べ、視点に沿って感想を書く。
13	① 読んだ伝記に出てくる主人公と自分を比べ、視点に沿って感想を書く。
朝の読み	書いた感想の読み合いをさせた

イ 3年以上の辞書の効果的な活用と低学年の「ことば」に着目する手立ての工夫

- ・ 言葉辞典の活用
4年生からの継続で、ノートを別に1冊準備させ、その中に難語句とその意味を記入させていった。また、日記の代わりに難語句を使った文を考え書かせる日を作った。(各単元一回文を書く日を設定)
- ・ 毎日辞典に触れさせる時間を多く作った。
- ・ 授業開始3～5分の辞書引き
授業の中で、常に辞書を置いて、分からない言葉があるとすぐに辞書を使わせようとしたが、実態として辞書ばかりに目がいき、使いもしないのに触って遊んでいる子どもが多く、授業に集中できない様子だったので、①授業中分からない言葉があった場合はノートの下の欄に写しておく。②授業開始3～5分で辞書を使ってそれらの言葉を調べる。③調べた言葉を使って日記の宿題で短文作りをする、という指導を行い習慣化させた。

ウ 読解と要約・再構成などの言語活動を意識した指導

- ・ 各場面(意味段落)ごとに長さを考え、字数制限ありでタイトルを付けさせた。
- ・ 子どもたちに視点に沿って感想を書かせ、熟考・評価に繋げる。

エ 授業の共通実践事項の徹底

- ・ 実践項目に沿った実践をすることができた。

成果と課題

- 単元計画を工夫し、伝記を子どもたちに進めたため、個人差は見られるものの進んで伝記を読む姿が見られた。
- 字数制限を設け、タイトル(小見出し)をつけさせたが、個人の力の差が如実に出た。1学期の6年生の研究授業の中で、段階を踏んだ字数制限が見られたので、2学期以降取り入れていきたい。
- 授業開始後の学習過程が子どもたちに身に付いた。毎日言葉にふれさせる習慣ができた。この時間を生かしながら言語事項を身に付けさせたい。

5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- 研究先進校のものなどを参考にして、本校の指導案の形式について確認することができた。
- 「読み」を支えるための授業における共通実践事項（言語事項の指導や辞書の活用単文作りなど）について、全学年の取組の在り方を確認することができた。



- 高学年の研究授業を通して、各学年の「要約・再構成」の指導はどうあればよいかイメージをつかむことができた。
- 要約・再構成を行う際に、段階的に字数制限を設けたことで、筆者の一番主張したいことをつかむことができるようになった。
- 授業に関連する並行読書を意図的に行わせたことで、自分の考えをまとめる際に幅広い視野をもった意見文を書くことができた。
- 授業を通して、筆者へ手紙を書いて送ったところ、筆者から一人一人に返事をいただくことができた。
- 全学年とも、仮説に基づいた具体的な取組を日々行うことができた。
- 保護者へも本校の研究の概要を知らせたことで、これまで行われていた母親による読み聞かせの機会に加えて、「おやじの会」に協力していただき、「おやじの読み聞かせ」も実現できた。



(2) 研究の課題

- 仮説に基づいた具体的な取組をさらに推進し、各種テストでの効果を確認する必要がある。
- 3年目の「表現する」という言語活動にむけてどのような取組ができるか、模索する必要がある。

